



デジモンテイマーズ

第44話

黒の少女 The Girl In Black

第三稿

脚本／小中千昭

Animation Play by Chiak J. Konaka

2001／10／11

登場人物

松田 啓人(10)	ギルモン	メガログラウモン
李 健良(10)	テリアモン	ラピッドモン
牧野 留姫(10)	レナモン	タオモン
加藤 樹莉(10) (偽)		
クルモン		
インプモン		
アリス・マッコイ(10)		
ドーベルモン		

Hypnos Team

山木満雄(32)	ネット管制室長
鳳 麗花(26)	チーフ・オペレーター
小野寺恵(23)	オペレーター

Wild Bunch

ドルフィン〔ロブ・マッコイ〕(50)	バベル(36)
デイジー(40) (台詞無し)	カーリー(43)
SHIBUMI〔水野 悟郎〕(42)	

Parents

松田 剛弘(41)	タカトの父親
松田 美枝(35)	タカトの母親
李 鎮宇(40)	ジエンの父親
李 柳瀬 〱 麻由美(42)	ジエンの母
牧野ルミ子(28)	留姫の母
秦 聖子(49)	留姫の祖母

報道番組アナウンサー (24話既出)

土岐アナウンサー (中継)

内原戸哲夫 (大学教授)

情報省副次官 (既出)

記者 1

記者 2

ADR-04 (Bubbles)

ADR-05 (Creep Hands)

アバンタイトル

N 「西新宿に出現したデ・リーパーに立ち向かう為、テイマ  
ーとデジモン達は再び集まった。デ・リーパーは、デジ  
モンのデータを吸収しタカト達に迫るが、パートナーと  
再会して力を得たベルゼブモンが戦いに加わった」

前話リプライズ

ベルゼブモンB、三体の完全体がゴーストを撃破。  
タオモンに握手するベルゼブモンB。

——樹莉の顔——

タカト、はっとなって振り向く。

タカト「加藤さん？」

既に樹莉の姿、そこに無い——。

タカト「——（悄然）」

サブタイトル

番組「特別報道番組 西新宿異常空間出現」（以下「番組」）

アナウンサー「この時間は予定を変更しまして、えー、再び西新  
宿で起こっている異変についての報道特別番組をお送り  
します」

池袋からのデ・リーパーが覆う西新宿画面。

アナウンサー「依然として、西新宿の都庁を中心に正体不明の空  
間が占拠し続けています。現場近くに土岐アナウンサー  
が行っています。土岐さん」

〔番組〕 中野坂上付近

土岐アナ「（汗をかきつつ）こちらはJR新宿駅を挟んで東側で  
す。ご覧の通り、異常空間は日に日に拡大しており、既  
に新宿駅の線路は半分覆われて鉄道の機能を失いました。

二月だというのに、異常空間周辺は気温が三十度を越え大変暑いです。既に報じられておりますが、新宿一帯は電話、通信が全く通信も使えないという状況です」

淀橋小学校／五年二組教室

蝉時雨——。

ギルモン、テリアモンはまだ机の上等で眠っている。タカト、窓から外をじっと見つめている。

ジエン「（脇に来て）タカト——」

タカト「まるで、夏休みみたいだ……」

ジエン「——僕たちで、何とか出来るんだろうか……」

タカト「……」

ジエン「——どうか、したの？」

タカト「——昨日、加藤さんを、僕見たんだ……」

留 姫「（来て）えっ？ 樹莉はだって——」

タカト「——昨日、あの後僕、松本の加藤さんのお母さんの家に

電話かけに行ったんだ……」

留 姫「何か夜いないと思った」

ジエン「で？」

タカト「加藤さん、いなくなっちゃって」

ジエン＋留姫「！」

タカト「でもおかしいんだ。いなくなったのは、昨日の夕方、

それまでは松本にいた。でも——、僕が見たのも夕方な

んだよ」

留 姫「見間違いつて事——、ない、よね……。でも、あの子、

こっちに戻ってくる前からずっと変だった」

ジエン「色々シヨクな事、あったから……」

タカト「でも、何かそれだけじゃない気がして——、僕、ずっと

胸が苦しいんだ……」

〔番組〕報道センター

三十台の痩せた大学教授コメンテーター。

S「米ミスカトニツク大学助教授 内原戸哲夫」

内原「異常空間は都庁の中に設置されていた、ネットワーク監視システム、ヒュブノスから現れたのは恐らく間違いないでしょう。ネットワークを監視するシステムというのは、四十年以上前、冷戦の時代から既に欧米で稼働していました」

アニメーション・フリップ、世界略図の中でエシユロンの拠点を明示していく。

アナウンサー「ヒュブノスは、昨年夏やはり新宿に出現した巨大疑似生命体の出現にも関係があったと言われていますね」

ワイプで明治通り戦の様相が流れる。

内原「デジモンという仮想生物が、この物質世界に擬似的な肉体を持って現れた。西新宿の異常空間も、やはりネットワークの何者かが現れたと、私は見ています」

アナウンサー「それはやはりデジモンと関係が？」

内原「当然あるんじゃないでしょうか」

北新宿ノビル屋上

高層ビルを飲み込んでいるデ・リーパー・ゾーン。

それを、見つめる少女のシルエット。樹莉か――？

しかしその隣には、大人以上の大きさの犬が静かに跪いている。

〔番組〕ノ監視ミサイル映像（前話リプライズ）

デ・リーパー・ゾーン内のCCDカメラ映像。

アナウンサー「（オフ）えー、これが、異常空間の内部です。先程防衛対策本部から公表されたものです。これはしかし

……（絶句）」

松田ベーカーリー前

食事をとろうと、やってきたタカト達。

タカト「あれ……？」

店の前に貼り紙。

「子どもたちへ 留姫さんの家に来なさい」

留 姫「え……？」

〔番組〕ADRの映像（ビデオ画面風加工）

夜空を飛ぶADR-02。

陸自の攻撃に反撃するADR-03。

アナウンサー「——異常空間から、正体不明の活動個体が現れています。これもまた、デジモンなのでしょうか。その辺りを、1980年代にデジモンを開発、研究をしていたというロブ・マツコイ教授に伺っています」

〔番組〕ノオペラタワー・ワイルドバンチ観察本部

S「パロアルト大教授 ロブ・マツコイ」

ドルフィン「あれはデジモンとは全く異なる存在です。デジモンは確かに、我々が研究していた頃に比べ、飛躍的に進化を遂げてネットワーク内で独自に世界を作り上げている。しかし、本来デジモンは、人間の、特に子どもとコミュニケーションをとる事でより強く、知的に進化するという存在です」（以下のシーンをバックに）

〔番組〕ノドルフィンのホーム・ビデオ

母親が撮影しているらしい、ドルフィンの自宅の部屋。ドルフィンはいくつかのALTOマシンの前に座っており、床に座り込んでスケッチブックにデジモンの絵を描いていた息子に、カメラに手を振る様に促している。  
タイム・スタンプ「05.OCT.1984」

子どもが描いた、デジモンのスケッチの数々。

〔番組〕ノワイルドバンチ観察本部

ドルフィン「（カメラを見て）デジモンは、私たちの世界を消し  
さるなどしません。今西新宿にいるあれは、全く別種の、  
より原始的な人工知性消去プログラム、デ・リーパーが  
異常進化したものだ、我々は考えています」

靖国通り

無人の街。そこを歩くタカト達。

と、俯き歩いていた留姫、立ち止まって

留 姫「——これ、何かの罠かも」

ジエン「わ、罠？」

留 姫「だって……」

タカト「とにかく行ってみようって、決めたじゃない」

レナモン「留姫……」

留 姫「判ったわよ行くわよ行けばいいんでしょ」

すたすたすた。

苦笑して顔を見合わせるタカトとジエン。

タカト「——あれ……」

ふ、と視線を感じ、通りの反対側を見るタカト。

タカト「！」

樹莉が、こちらを見て立っている。

タカト「加藤さん！」

タカトの視界の中の樹莉

ふつ、と周りの全てが消え、タカトの耳に囁く様に  
樹 莉「この混沌の世界は一体なあに？ 誰もが勝手に活動して  
生きている。そんなことに価値なんてある？」

タカト「……」

〔番組〕ワイルドバンチ観察本部

今度はカーリーが答えている。ADRの映像を見つつか  
S「パロアルト大助教授 アイシュワリヤ・ライ」  
カーリー「ここを見てください。これらは皆、デ・リーパーから  
臍の緒の様なもので繋がっています。デ・リーパーは本  
来、単に自らを増殖させ、そのメモリ・フィールドを0、  
無に潰していくだけなのですが――、恐らくネットワー  
クでデジモンを吸収した際、デジモンの活動能力を学習  
して、彼らがよりアクティヴに動ける為のエージェント、  
肉体を作ったと見ています」

初期デ・リーパーの活動（38話登場）

靖国通り

道路の反対側にいるタカトのところへ、集まる一同。  
ギルモン「タカト、どうしたの？」

タカト「いま……、ここに、加藤さんがいた――」

留 姫「ええ？ 誰か見た？」

ジエン「僕は……」

レナモン「――いや、私も気配は感じた」

留 姫「気配？ 樹莉の？」

レナモン「そこまでは……（首を横に）」

タカト「いたんだ……。ここに……」

オペラタワーノワイルドバンチ観測所

テレビ・クルーが撤収をしている。それを離れたと  
ころから見ていた山木。麗花、脇に立ち

麗 花「――一人で責任を抱え込もうとしてる？」

山 木「――」

麗 花「いずれネットワークは自由の世界じゃなくなる。誰かが  
監視システムで支配しようとする。あなた――、室長は  
最初の一人だっただけ、です」

山 木「――（表情を緩め）間抜け野郎の一人目になるつもりは  
ない」



麗花「あたしそういう意味で——」

山木「一人だけで何かが出来るなんて、もう思っていない。それに、ネットワークは支配されるべき世界だとも思っていない」

ポン、と山木の肩を叩く鎮宇。

鎮宇「デ・リーパーの最も初期のデータを入手したよ」

山木「！ どこですか」

鎮宇「ドイツの仲間が保存してくれていた。これから解析する。

——山木君、我々には出来る事がまだある」

山木と麗花、微笑む。

SHIBUMI「（向こうの卓から）おーいタオー、早くしてくれよ」

鎮宇「ああ、今サーバに上げる」

留姫の家／玄関

ガラツ、と格子戸を開く留姫。

留姫「！」

唾然となるタカト達。

タカトの父「お帰り、つてここは留姫ちゃん家だったか（笑）」

タカトの両親、留姫の母、祖母、ジエンの母親が笑顔で出迎えている。

ジエン「お、母さん……」

留姫の家／座敷

テーブル上には、和洋取り混ぜた料理の数々。

テリアモン「ごちそうだー！ あははわーい」

ギルモン、ギルモンパンを見つける。

ギルモン「わっ！ これ、ギルモンパン？」

タカトの父「ああ、やっと食べられるな、段ボール」

タカト「——お父さん……」

聖子「みんなで作ったんだから、全部食べてよね」

留姫「——おばあちゃん、ママ……」

ルミ子「あたしだってたまには作るって（苦笑）」

タカトの母「さ、早くおあがんなさいな」  
子どもたち+デジモン「いただきますーす」

食べ始めるギルモン達。

ジェン「——小春は……?」

ジェンの母「趙先生のところでお留守番してる」

ジェン「——そう……」

テリアモン「わー、このお饅頭おいしいー」

微笑して見ているジェンの母——。

タカト「——あの……、僕たち……」

タカトの母「ああ、下着とか持ってきたから。後でお風呂頂いて

着替えなさいよ」

タカト「……（パンが喉を通らない——）」

淀橋小学校/校庭

ぐるぐると、校庭に絵を描く様に跡がついている。

その中央でクルモン、寂しそうに——

クルモン「んーん……。みんなどこ行っただですか……?」

クルモン、都庁の頂きを見つめている。

二つの塔の間に、何か反射する小さなものが見える。

クルモン「……くるる……?」

ゴン。後ろから蹴倒されるクルモン。

クルモン「わーん」

インプモン「うりゃ。何タソガレてんだよッ」

クルモン「ひどいじゃないですかまたーっ!」

インプモン「けっ。くるくるくるくる、どこ行ってたんだよ」

クルモン「クルモン、樹莉と一緒にいたですー。でも樹莉、いな

くなっちゃったんでーすよー」

インプモン「——（俯き）おいら、あいつのパートナーを……」

強くなる目——。

歩きだすインプモン。トコトコついていくクルモン。

クルモン「どこいくんーんですかーくる?」

インプモン「俺がここに帰ってこれたのは、仲間のお蔭だ。俺が

何とかしなきゃいけねーんだよっ」

クルモン「くるる〜?」

〔番組〕情報省記者会見室

山木の上司（監査官）だった、副次官がカメラの放列の前に。

副次官「——ネット管理局は、一般国民の私的な通信内容まで傍受していた訳ではありません」

記者1「（手を上げ）しかしヒュブノスは、単に情報を傍受するだけでなく、情報を逆にプッシュする、ネットワークを用いた情報操作までも可能ではないかという告発があります  
ますが」

副次官「いえ、その様な機能までは持ちません」  
記者2「西新宿で起きている事について、対策は」

副次官「現在、関係各省庁と共に、早期解決を目指しております」  
怒号。納得しない記者たち。

アナウンサー「（ワイプイン）情報省の記者会見の途中ですが、西新宿で再び動きがあった様です。現場の土岐さん」  
ズザザザ。ノイズに眉を顰めるアナウンサー。

南新宿デッキ

走る少女（逆光シルエット）。

と——、その背後から、クラゲの様なエージェント  
ADR-04(Bubbles) が、臍の緒を揺らせながら、数体  
接近してくる。

少女「はっ、はっ、はっ」

ADR-04、腕を膨らませて少女に向ける。  
少女と共に走っていた巨大犬、振り向いて唸る。

少女「駄目！」

ADR-04の腕、臨界に達し——、先端が破裂！  
ドゴッ！ 風弾が少女の近くに着弾。木材のデッキ  
がベキベキと割れていく。

留姫の家 / 座敷

食べ終わった子ども達とデジモン。

ギルモン「ごちそうさまー。ギルモンもう食べられないー」  
タカト母「（苦笑）食べ過ぎだつて」

ギルモン「ふふっ。ギルモンパンがでも一番美味しかったなー」  
テリアモン「僕はお饅頭が一番」

ジエン母「（苦笑）いつも食べてたんじゃないの？」

テリアモン「あれ？ バレてた……？」

ジエン母「ジエンリヤが時々、変に一杯持つていくからおかしい  
なつて思つてた」

ジエン「——うん……」

留 姫「——レナモン？」

レナモンだけ、部屋の隅に。何かに気づいて外を見  
ていたが——

レナモン「御馳走になりました（礼）」

聖 子「あなたもこつちくれば良いのに」

レナモン「——いえ……（また窓外を見つめる）」

オペラタワー / ワイルドバンチ観測所

隅の卓では、何知らぬ顔でSHIBUMI、お茶をすすり  
ながらトラックボールを操作。

SHIBUMI「（鼻唄）」

パチパチパチ、兩人指し指で素早いタイピング。  
サツとウィンドウが新規に開き、原始デ・リーパー  
の構造図が浮かぶ。

SHIBUMI「ほお……。こりや確かに原始的な人工知性だ」

鎮 宇「（脇に来て）SHIBUMI、君がデジタル・ワールドで見た  
ものと、あれ（外）は同じなのか」

SHIBUMI「違う。いや、基本的には同じなんだが、デジタル・ワ  
ールドでは、あれは触れただけで他のデータを消し去っ  
ていた。だが、あそこにいるのは——」

バベル「タオ！ 新宿地帯の衛星写真が送られてきた」

鎮宇、バベルの卓に行き、モニタを見る。

鎮宇「——ん……」

バベル「浸食は、公園、緑の多いところを避けている様だな」

鎮宇「代々木公園と新宿御苑か……。そう言えば中央公園からこちら側にも広がってはきていない……」

SHIBUMI「単に有機物、生物を避けているだけなのか……。、それとも他に理由があるのか……」

留姫の家／座敷

タカト「（思いつめ——）あの、僕……」

ピキーン。タカトの尻の方に光。

タカト「は」

ジェン、留姫のDアークにも光が。

ジェン「デジバイスが反応している——」

留姫「レナモン、何か判る？」

レナモン「（立って外を見ながら）——見てくる」

レナモン、サツと飛び出す。

タカト「行かなきゃ！僕たちも！」

立ち上がるタカト、ジェン達。

タカト「——！」

親達も立った。

タカト「——僕たち——」

タカト父「お父さんたちな、話し合ったんだ」

タカト「！」

タカト父「自分の子ども達が危険な事をするのを、黙って許す親なんかない。絶対に」

俯くタカト——、Dアークを握りしめている。

タカト父「でも、子どもが本当にしたいって事を止める権利も、親にはない」

タカト「——」

庭に出ているギルモンとテリアモン。

タカト母「というか、そもそもこんな状況の親子なんて、普通ないからね……（寂しげに笑い）」

ジェン母「だったら、あたしたちも、ただ悲しんで待つてるんじやなくって、あなたたちの助けになるうって決めたのよ」  
ジェン「——お母さん……（やや涙）」

留 姫「——いいの？ ママ」

ルミ子「だからー、いいって言わないよってば、あたしたち」

留 姫「——」

ルミ子「頑張つてね、とかも言いたくない、本当は……」

留 姫「——」

ルミ子「——（唇を噛んで俯く）ごめん。お母さん——」

聖 子「——判るよね、留姫ちゃん」

留 姫「——うん」

聖 子「（子ども達に）この家もいつまでいられるか判らないけど、精一杯、あたしたちがあなたたちを支える。だから、自分の命だけは大事にして頂戴」

タカト、ジェン、留姫「——はいっ！」

留 姫の家前

庭から飛び出していくグラウモン、ガルゴモン。  
それぞれのティマーを背に。

〔番組〕新宿三丁目ノ御苑トンネル前

土岐アナウンサー「——四谷からケーブルを引っ張ってきて、やっと中継を再開出来ました。えー、只今、南新宿デッキの方で、小型の活動個体が武装攻撃をしている模様です」  
背後で、ずずーんという爆発音。

カメラ、ブレつつ急速ズーム。ADR-04群が映る！

オペラタワーノワイルドバンチ観測所

窓から見ている山木達。爆発はデ・リーパー・ゾーンの反対側なので見えない。

山 木「くそっ、何が起きているんだ……」

山木、自分の席に頭を掻きむしりながら座る。

机の上には、小さな古代魚の化石。

じっとそれを見つめる山木――。

ピピ……。ノートPCのインスタント・メッセージャーが着信を通知。

山木「ん……？」

山木、トラックパッドに指を走らせ、開く。

パームのアイコンが浮かぶ。

山木「何……？ これは――」

フラッシュノ42話

タカトがパームのメールを見る。

中央公園、デジタルワールドへ沈んでいくアーク。

オペラタワーノワイルドバンチ観測所

山木「アーク、なのか？ 向こうの世界へ落ちて行った筈なの

に――」

恵「室長！ デジモンが！ あの子達が！」

山木「……」

新宿南口デッキ

グライモン、ガルゴモン、キュウビモン、そしてそれぞれタイマーが立つ。

ADR-04、高島屋とJRビルの間の橋を走る者を襲つ。

ジエン「あそこだ！」

ガルゴモン「よーしっ、いっちょやっっちゃうぞーっ」

腕をぶるんぶるん振り回すガルゴモンを乗せ、グライモン、跳躍。

グライモン「いくぞっ！ ガルゴモン」

ガルゴモン「おっおー！」

落下していきざまにADR-04に攻撃！

ガルゴモン「ガトリング・アーム！」

グラウモン「エキゾースト・フレイム！」

圧倒的パワーにADR-04、落ちていく。

キュウビモン、先行着地し、見回す。

逃がっている少女。

ジエン「（見て）狙われているのは——」

タカト「あれは——（樹莉と疑っている）」

橋の向こうに渡り切ろうとしている少女——。

再び狙って飛来してくるADR-04群。

留 姫「キュウビモン！」

キュウビモン「鬼火玉！」

キュウビモンの発した鬼火、ADR-04を焼き払う。

ジエン「大丈夫かつ？」

タカト「加藤さん、加藤さんなの？」

倒れていた少女、起き上がる。

ゴシック&ロリータな服に、透き通る様な膚の、植物的な美しい少女（白人）。タカト達よりやや大人びて見える。そしてその脇には、巨大な黒い犬。

タカト「——違う……」

留 姫「誰……？」

オペラタワーノワイルドバンチ観測所

ノートPCの液晶に見入る山木。

山 木「誰だ……、誰がパームで通信してきているんだ……」

画面、なかなか同期がとれず、ノイズばかり。

山木、ハツと振り向き——ドルフィンを見つけ——

南口デッキ

橋の上、少女と対峙するティマー達。

少女「——デジモンと共に戦うティマー」

タカト「僕たちの、事……？」

少女「探してた」



留 姫「あんた誰なのよ。どこから来たの？」

グラウモン「タカト」

タカト「どうしたのグラウモン」

グラウモン「そこにいるの、デジモンだ」

タカト「えっ！」

黒い犬、口を広げる。まるで鯨の様な牙が覗く。

ドーベルモン「アリス、この者達なのか」

アリス「そうみたいだよ。（やや微笑）よかったね」

オペラタワー／ワイルドバンチ観測所

ドルフィンの上に幾つかの写真額。

息子の写真を見ていたドルフィンに――

山 木「（来て）ドルフィン、あなたが書いた、アークのコア・

プログラムはデジモンのものだと言いましたね」

ドルフィン「ん？ デジモンそのものではない。デジコア、つま

りデジモンの最も基礎的な部分だけだ」

山 木「だがそれが、自分の意志で行動をした」

フラッシュ／42話

アークを動かそうと必死なデジジャー達。

止まっているアーク。

オペラタワー／ワイルドバンチ観測所

山 木「アークに、意志が生まれた。そういう可能性がある。違

いますか」

ドルフィン「デジモンは、我々の思惑、設計を越えた何かを予め  
持っていたのかもしれない。しかし何故そんな事――」

山木、ドルフィンの中の端末を操作。

山木のPCの画面がこちらにも表示。

山 木「アークは何かをこちらに伝えようとしています」

ドルフィン「なんだって？」

新宿南口デッキ

ジェン「それは君のパートナー？」

低く近づいてくるヘリの音。

アリス「この子はドーベルモン」

すつとアリスに寄り添うドーベルモン。

アリス「（頭を撫で）この子がこの世界に現れたのは、ちょっと

前の事……。来てくれて嬉しかった」

留 姫「でも、何故ここに来たの？」

ドーベルモン「俺は、伝えに来た」

タカト「——伝えるっ、て何——」

ドドオオオンン！

橋下から伸びた巨大な腕！

ジェン「危ない！」

ガルゴモン、即時反撃！

逃げる子ども達。しかし巨大な腕は橋を叩き落とす！

タカト「！ デカイ！」

巨大なるADR-05 (Creep Hands)、眷属ADR-04を従え

タカトらに向かってくる！

トリプル進化バンク

ティマー「カード・スラッシュ！ 超進化プラグインS！」

三人のカード、ブルーカードに変わって——

完全体へ進化していく——

メガログラウモン——

ラピッドモン

タオモン！

新宿駅

唸りを上げて立ち上がるメガログラウモン！

俊敏に飛行しつつ戦闘態勢のラピッドモン！

先手を撃つはタオモン！

タオモン「梵・筆・閃！」

巨大梵字がADR-05を直撃。

ADR-04がさっと集中して自らに当たる。

その間にADR-05、腕で匍匐前進し、メガログラウモンを地に押しつける。

メガログラウモン「ぐわおおお！」

ラピッドモン「ゴールデン・トライアングル！」

ラピッドモンの必殺技も利かず！腕に掴まれる！

ラピッドモン「うわわわわっ」

ジェン「ラピッドモン！」

そのまま地に叩き伏せられる！

タカト「やっぱり究極体に進化しなきゃ戦えない！」

ジェン「けど、ここはデジタル・ワールドじゃない！僕たちが

データになれなければ、一緒に戦えない！」

アリス「——だから、あたしが来たの」

留 姫「は？」

アリス「この子連れて」

タカト「ドーベルモン——、でも何で僕たちが——」

ドーベルモン「俺は伝えに来た。スーツエーモンとチンロンモン

の命により」

タカト「えっ？」

ジェン「四聖獣？」

オペラタワーノワイルドバンチ観測所

ノイズ画面に、不鮮明かつ傾いだアングルで浮かぶ、デジタル・ワールドの光景。

鎮 宇「これは……！」

巨大樹の様に、デジタル・ワールドに広がりつつある、デ・リーパーと、それに対抗する者達の光。スーツエーモンの姿が小さく見える。

新宿南口

ドーベルモン、アリスを見上げ

ドーベルモン「アリス、ここまで連れてきてくれてありがとう」

アリス「——（固い顔）もう——？」

ドーベルモン「離れていてくれ、アリス」

小さく「いや」と首を横に振るアリス。

ドーベルモン、跳躍。

タカト「！」

ドーベルモン「四聖獣はデジタル・ワールドで、デジモン達と共にデ・リーパーと闘っている！ しかしデ・リーパーの最も進化した部分はこの世界に来ているのだ！ お前たちが戦わねばならない！ デジモンと共に闘うテイマー達よ！ 四聖獣からお前たちに力を伝える！」

ドーベルモンの体、赤と青のデジタル・グライドに変容していく。

アリス「（悲しそうに見つめ）ドーベルモン……」

タカト「！ これ、何？」

ジェン「デジタル・ワールドの力——！」

ドゴオオオオン！ タオモンが倒された！

留 姫「（焦り）早く！ 早くなんとかしないと！」

二つの光の帯が、三人を包む。

タカト「——そうだ！ この世界じゃ僕たちが戦わなきゃいけないんだ！」

タカト、Dアークを腰から抜く。

タカト「メガログラウモン！ 行くぞ！」

ジェン「ラピッドモン！」

留 姫「タオモン！」

三人、Dアークをかざし——

以下次回